

長期戦略:テーマ 「カリキュラムの基本構造の改革」

提出日 2020年12月18日

担当部署

II. 実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	宮田教務機構長 (教務機構)	実施計画の 担当部署	教務機構 (ハンズオン・ラーニングセンター)
-----------------------	-------------------	---------------	---------------------------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
1-(3)-⑦ ハンズオン・ラーニング・プログラムのさらなる拡充	2021年度	2023年度	必要なし	不要
内容				
<p>本学のキャリア教育はキャリアセンター(キャリア教育プログラム室)を開講部局として科目を提供し、2013年度からはキャリア教育常勤教員を配置し、プログラムの質・量の拡充を行ってきた。その後、2017年度のハンズオン・ラーニングセンター(以下、HoLC)開設に伴い、開講部局がキャリアセンターより移管され、キャリア教育科目はハンズオン・ラーニング・プログラムの一部となり、ダブルチャレンジ科目として多くの学生が履修しており、現在に至っている。</p> <p>この度、教育特別任期制教員制度が制定され、それに伴い2021年3月31日をもってキャリア教育常勤教員制度の廃止が決定された。今後、引き続き本学におけるキャリア教育を充実・発展させるためには、キャリア教育常勤講師に代わる教育特別任期制教員をハンズオン・ラーニングセンターに配置し、キャリア教育科目全体をコーディネートすることが必要である。</p> <p>2022年度よりキャリア教育科目の開講部局をキャリアセンター(キャリア教育プログラム室)に移管するが、教育特別任期制教員はキャリア教育だけでなく、PBL、インターンシップ等に関する科目についても担当するため、引き続き所属はHoLCとしキャリア教育科目とハンズオン科目の担当およびコーディネートする役割を担ってもらう。キャリア教育科目とハンズオン科目は密接な関係にあり、科目間の連携が不可欠である。HoLCで築いてきたその機能を維持・発展するために、教育特別任期制教員がキャリア教育プログラム室、ハンズオン教育プログラム室において委員を兼務し、更なる情報共有、連携強化を行い、プログラムとしてのクオリティーの向上を目指す。また、HoLCはダブルチャレンジプログラム事務局でもあるため、キャリアセンターとの事務的な連携も行う。</p> <p>なお、ダブルチャレンジ制度においてキャリア教育科目は「ハンズオン・ラーニング・プログラム」に含まれるため、今回の業務移管を機に実施計画名を「ハンズオン・ラーニング・プログラムのさらなる拡充」に変更する。あわせて本計画の指標を「(SGU1-2)ハンズオン・ラーニング・プログラム(実践型学習)」に変更する。また、キャリア教育科目の指標については、キャリアセンターが担当部署となる実施計画「新たなキャリア教育の再構築」において新たに定める。</p> <p>以下「カリキュラムの基本構造の改革WG(学士課程教育テーマ3)」での検討内容を記す。</p> <p>「カリキュラムの基本構造の改革WG」では、2018年7月以降12回の開催を通じて、「Kwansei コンピテンシー」の検討及びそれらを学生が身に付けるための基盤教育の在り方について、鋭意議論を行ってきた。その中で、以下の2点を「短期的に解決すべき事項」としてとりまとめた。</p> <p>1) 導入教育の強化</p> <p>ライティングスキルの修得等大学での学びの基礎となる学修能力、スキルと資質を涵養しつつ、4年間の学習目標の設定や計画の立案を支援し、学びの習慣化、主</p>				

1 / 7

1-(3)-⑦

<p>体的・能動的な学修者の育成を目指す。(◆強化する科目:ライフデザイン科目、スタディスキル科目)</p> <p>2) 実践的学び、課題発見・課題解決型教育(PBL)の推進</p> <p><u>教室等で学んだ知識、スキルを実社会で応用する実践的学びをさらに推進し、理論と実践の往還を図る。また、実社会での学びを通じて視野を広げ、大学時代に専門的に探究する学びのテーマの探索を支援する。また、企業の採用活動の通年化なども念頭に専門性との関係も加味した中長期インターンシップの強化を図る。</u></p> <p>(◆強化する科目:ハンズオン科目、ライフデザイン科目)</p> <p>一方、日本経団連は、2018年10月に従来からの「新卒一括採用」傾斜の採用選考を、ジョブ型雇用を念頭に多様な採用形態に移行すべきという方針を示し、同年12月には「今後の採用と大学教育に関する提案」を、2019年4月には「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」中間とりまとめを発表した。</p> <p>以上のような背景を踏まえ、今後益々高まる大学教育への期待と卒業段階での本学学生の学修成果の修得、質の高い就労を実現していくため、初年次からのキャリア教育、キャリア支援を以下のポイントを中心に2021年以降一層強化していく。</p> <p>1. 特に1・2年次のキャリア教育として、学業への動機づけや将来を見据えたキャリアデザインを意識した授業科目の提供を強化する。</p> <p>2. 産学連携の実践的なPBL(Project-Based-Learning)型教育の提供を強化する。</p> <p>3. 専門性との関係において実施される中長期のインターンシッププログラムの開発・提供を行う。</p> <p>(※3は、主にキャリアセンターが中心となって、各学部と連携したプログラム開発を今後行う方向で検討予定)</p>		
進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式
指標1	ハンズオン・ラーニング・プログラム	当該年度の卒業生のうち、ハンズオン・ラーニング・プログラムの単位を取得して卒業した学生数(延べ人数)
指標2	※独自定数1 アウェイチャレンジ 単位取得卒業生数(実数)	当該年度の卒業生のうち、ダブルチャレンジ制度のアウェイチャレンジ(①インターナショナルプログラム、②ハンズオン・ラーニング・プログラム、③副専攻プログラム)の単位を取得して卒業した学生数(実数)
指標3	参照指標 全学生数当該年度の卒業生数 うち学部(通年)	全学生数当該年度の卒業生数 うち学部(通年)

2 / 7

目標1<指標1> ハンズオン・ラーニング・プログラム

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
目標	—	—	—	—		
実績						

目標2<指標2> ※独自定量1アウェイチャレンジ単位取得卒業生数(実数)

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
目標	3950 人	5700 人	5700 人			
実績						

目標3<指標3> 参照指標 全学生数当該年度の卒業生数 うち学部 (通年)

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
目標	—	—	—			
実績						

2. ロードマップ

		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
ハンズオン・ラーニング・プログラム(キャリア教育科目+ハンズオン科目)の拡充	策定段階	教員募集	教員採用	キャリア教育科目の検討・見直し	新キャリア教育科目開講	実施
	2020 年 3 月 末段階	教員募集を行い、候補者1名を選出				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	-
	策定段階	実施	実施	実施	実施	
	2020 年 3 月 末段階					
		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
	策定段階					
	2020 年 3 月 末段階					
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	-
	策定段階					
	2020 年 3 月 末段階					

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】							
非公開							
経費 単位:万円	2021年度 承認	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	左記以降
非公開							
人員・人件費 単位:万円	2021年度 承認	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	左記以降
非公開							

4. 進捗状況・得られた成果

2019年度	2019年度に公募を行い47名の応募があり、候補者として1名を選出した。
2020年度	
2021年度	
2022年度	
2023年度	
2024年度	

5. 今後の課題及び方向性

2019年度	2019年度に新たに設定された実施計画であり、現状及び今後の推進課題や方向性は2021年度に向けて整理する。
2020年度	全学およびハンズオン・ラーニングセンターの中でのキャリア教育の位置づけを整理する必要がある。キャリアセンターと連携を取りながら、プログラム内容を検討中である。
2021年度	
2022年度	
2023年度	
2024年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2019年度	—
2020年度	キャリア教育プログラムのコーディネートに係る人件費を認めます。
2021年度	
2022年度	
2023年度	
2024年度	

7. Total Review の結果

【フェーズⅠ(2019～2021)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズⅡに向けた課題」廃止・その理由と今後の方向性)
<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の充実のため、2021年度より着任する教育特別任期制教員を雇用了。 ・キャリア教育プログラムについては、既存の授業科目の内容精査に加え、委託業者との打合せ等も行うことで、プログラムの充実を図っていく予定である。 ・2022年度に向け、キャリアセンターと連携したカリキュラムの改編を行う予定。 	継続 ・ 廃止	・特になし

【フェーズⅡ(2022～2024)】

レビュー結果	可否	備考 (継続:「フェーズⅡに向けた課題」廃止・その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	